R８南信教育事務所だより

教うるは 学ぶの 半ばなり

教学半也

令和８年10月１日
No.11

校内研究に関わる
全ての読者対象

第２回研究主任研修会　令和８年８月21日（オンライン開催）

全国学力・学習状況調査の結果をどう活用するか

全国学力・学習状況調査を、人間ドックと考えてみる。
課題もあるかもしれません。でも、分析から見えてきた、
子どもたちの「よさ」や「可能性」に光を当てていきましょう。
学びの改革支援課　垣内指導主事より

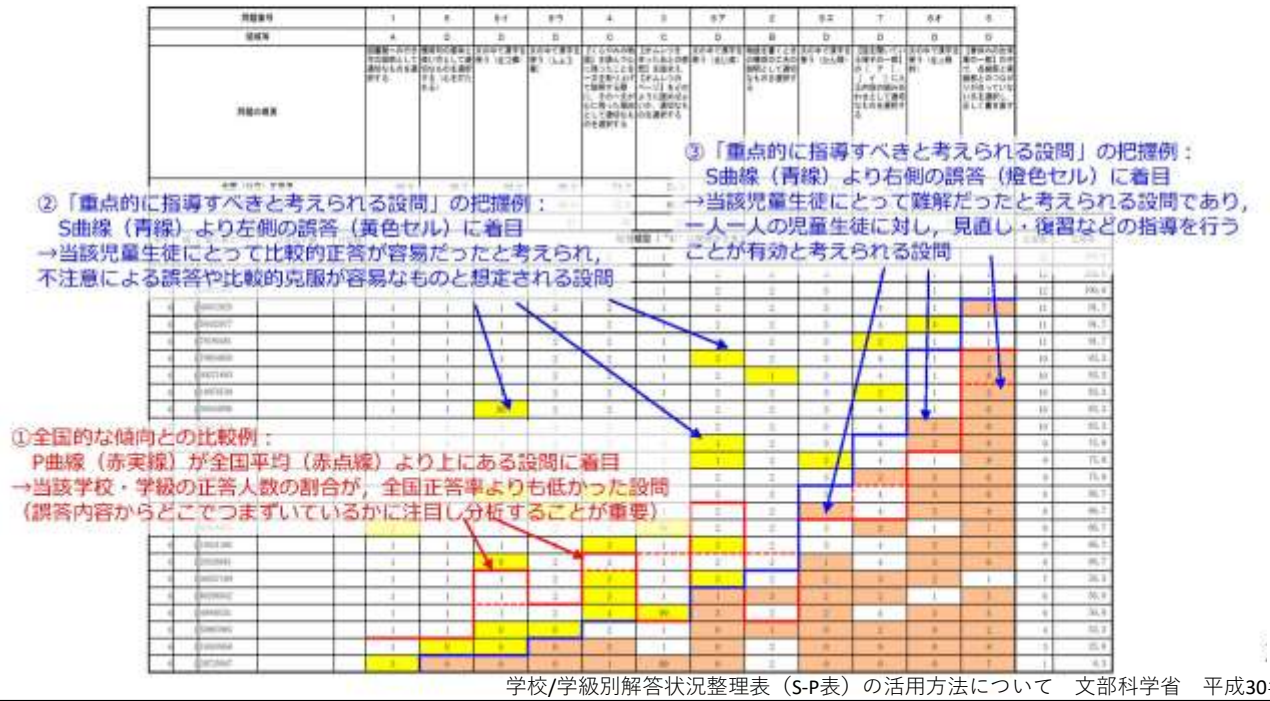


①学力調査の結果　S-P表の活用

学校/学級別解答状況整理表（S-P表）の活用方法について

活用方法

①全国的な傾向との比較
②学校・学級ごと、児童生徒ごとの「重点的に指導すべきと考えられる設問」の把握
等により，学習上の課題を明らかにし，教育指導の改善・充実に活用



学校/学級別解答状況整理表（S-P表）の活用方法について　文部科学省　平成30年

S-P表を活用することで

○学級や個々の児童生徒の強みを見つけ出す…赤実線と赤点線とに着目
○学校や学級全体の課題（つまずき）の傾向を見つけ出す…赤実線と赤点線に着目
○重点的に指導すべき設問（比較的克服が容易な設問）を見つけ出す…黄色のセルに着目
○児童生徒のつまずきの傾向を見つけ出す…解答類型に着目

②質問調査の結果　児童生徒質問調査・学校質問調査の比較



「**児童生徒質問調査**」から
学校改革や目指す生徒像に向かうための取組についての**児童生徒の現在の立ち位置**を読み取ります。

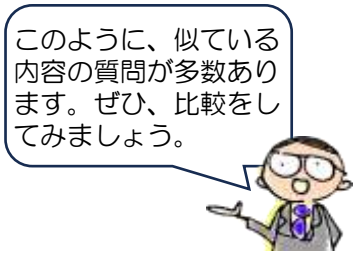
似ている質問内容を比較して見る

「**学校質問調査**」から
学校改革や目指す生徒像に向かうための取組についての**各学校の取組の進捗状況**を読み取ります。

例「個別最適な学び」に関わる質問調査の内容

児童生徒質問調査
（41）授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。

学校質問調査
（31）学習指導において、児童（生徒）一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫する。



「児童生徒質問調査」「学校質問調査」を活用することで

「児童生徒質問調査」と「学校質問調査」を比較し、校内の先生方と「教師の手立て」の実際や、「児童生徒の学習の姿」を振り返ることで、現在の学校改革に向けた取組の状況を読み取ります。そして、先生方と、児童生徒一人一人の願いに応じて、学校教育目標の具現に向けてどのような取組の工夫ができそうなのかを話し合うことが、校内研修として考えられます。また、**学校（先生方）と児童生徒が共に「そう思う」と回答をしている「学校の強み」について、その要因を探り、取組を考えていくことも大切なポイントです。**

「児童生徒質問調査」と「学校質問調査」の内容を確認していただき、似ている質問項目について、ぜひ比較をして見ていただきたいと思います。

【参加者の感想】



これまで「学力調査」と聞くと、教科の結果に目が向きがちでしたが、学校質問調査や児童生徒質問調査の結果と照らし合わせることで、児童の学習に対する意識や学び方、自校の指導の傾向を多面的に読み取れることを実感しました。

「よさ」は先生方の実践の賜物でもあるので、先生方の自信にもつながると思います。「課題＝伸びしろ」だと思うので、それも日々の授業改善につながります。人間ドックという話もありましたが、まさにこれからに向けて考えられる貴重な資料になると実感しました。



第２回目の研究主任研修会では、令和８年度全国学力・学習状況調査の結果の活用について情報提供と意見交換を行いました。毎年行われるこの調査ですが、校内でどのように結果を活用されているでしょうか。

今回の研修では、**「子どものよさや可能性に目を向ける」**ことをお伝えさせていただきました。調査と聞くと、どうしても「課題」に目が向きがちですが、**「この子はこれが『得意』なのだ」**という、一人一人の「強み」を教師が理解し、伸ばしていく視点を、ぜひ大切にしましょう。

第３回研究主任研修会　～1年間の歩みを振り返り、次年度の取組の構想へ～

オンライン開催

【下伊那】
令和９年１月１２日（火）

【諏訪・上伊那】
令和９年１月１８日（月）

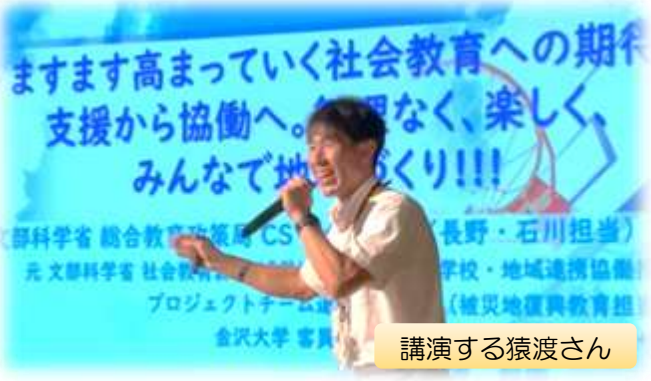
【対象】
研究主任や副主任、研究部会主任 研究係等参加希望者
（複数による参加可能）

【出欠確認】
12月初旬に開催要項を各学校にメールにて送付します。要項に記載する二次元コード、または、URL から申し込みをしてください。

地域連携・協働フォーラム　令和８年８月27日（於：下諏訪総合文化センター）

地域学校協働活動は“地域コミュニティの活性化”

下諏訪総合文化センターにおいて、地域連携・協働フォーラムが開かれました。今年度のテーマである「『地域ぐるみで子どもを育てるためにできること』をそれぞれの立場から考えよう」に沿って、全体会では文部科学省ＣＳマイスターの猿渡智衛さんの講演が、その後は下記のような熱気あふれる５つの分科会が行われました。



講演する猿渡さん

猿渡さんの講演では、地域学校協働活動の強みや課題にはじまり、数多くの実践事例をもとにした地域学校協働活動の可能性（高まる社会教育への期待）が語られました。参加者の声にもあるように、猿渡さんが最後におっしゃった「地域学校協働活動は子供の成長を促すだけでなく、地域コミュニティの活性化につながる意義が大きい教育活動である」という言葉が印象に残りました。

「学校づくり＝地域づくり」という発想がとても大事だと思いました。学校が核となって地域の課題が少しでも解決に向かい、また、その様子を見ていた子どもたちが同じように体験や活動を通して成長できる、そんなコミュニティスクールが実現したら素晴らしいと思いました。　（参加者の感想より）

＜各分科会の講師・内容・参加者の感想＞

第１分科会 ＜大学生の地域づくり＞	佐野天咲さん（慶応義塾大学） 「世代・属性を越えた場づくり～Sekai no Monogatari　にあなただけの物語を～」
・「ときめき」と「空間づくり」をテーマに具体性のある分科会で、現役大学生の感性にふれられて良かった。 ・「ときめき」×「空間」、「健全な悪巧み」。未来がワクワクする時間になりました。ありがとうございました。	
第２分科会 ＜学社連携＞	清水ひろみさん、小林博子さん（宮田村立宮田小学校） 「地域連携～宮田小学校コミュニティスクールの歩み～」 吉澤秀幸さん（茅野市立長峰中学校）、両角徹生さん（学校運営協議会地域コーディネーター） 「生き方の探究～地域の素敵な大人をご紹介します～」
・宮田小の教員が代わってもつながっていくやり方や企画づくりに感心しました。清掃ボランティアは業務改善につながると感じました。長峰中の職業講話は、生き方探究やキャリアについて考える楽しそうな企画で聞き入りました。	
第３分科会 ＜地域コミュニティ＞	大石允耶さん（合同会社Aino Design代表　Jampopo運営） 「ボードゲームでひらく地域との学び～『ごみゼロゲーム』と『地元カタン』に学ぶ、対話と協働の実践～
・ゲームをすることで自然に対話が生まれ、つながることができることを実感させていただきました。地域の方とのふれあいの時間に取り入れ、子どもと地域の方が楽しみながら、自然な形でつながっていけたらと思います。	
第４分科会 ＜第３の居場所＞	酒井裕司さん（わらむ代表） 「磨けば光る」
・酒井さんのお話が素晴らしかったです。農業と福祉の連携、農福連携という視点は今までなかった視点でした。人の長所や良さを磨くことの大切さを教わりました。	
第５分科会 ＜放課後の活動＞	小日向和彦さん、永井多聞さん（下諏訪町放課後こども教室コーディネーター） 「地域と子どもの繋がり～放課後子ども教室の活動について～」
・下諏訪町の取組は、その場で子どもがやってみたい活動を選び取り組む方法で良いと思いました。子ども自身が何にチャレンジしたいか考え、失敗しながらできるようになっていく体験ができる取組だと思います。	


第１分科会


第３分科会


第５分科会

Try it club
信州地域クラブ活動推進
公認シンボルマーク

部活動地域展開情報コラム　Vol.2

つながる南信 広がる可能性

2026 OCTOBER 10

NEW PROJECT　南信地区部活動の地域展開に関わる情報交換会



「令和８年度末を目途とした休日の学校部活動の地域クラブ活動への展開完了」の実現に向け、各市町村で部活動の地域展開が進められています。

南信教育事務所及び南信教育事務所飯田事務所では、７月８日（水）に「南信地区部活動の地域展開に関わる情報交換会」を伊那合同庁舎で開催しました。当日は、各市町村の担当者やコーディネーターが集まり、休日の部活動地域展開や認定地域クラブの運営状況、今後の課題について情報交換を行いました。

各市町村の取組状況はさまざまですが、多くの自治体で認定地域クラブへの展開準備や広域連携の検討が進められていました。今後も情報共有を通して、それぞれの地域の実情に応じた取組の推進が期待されます。

DISCUSSION　共通する課題について



情報交換では、「指導者の確保・育成」「財源の確保」「生徒数減少への対応」が、多くの地域に共通する大きな課題であることが確認されました。

また、これらの課題の解決に向けては、広域連携の推進や持続可能な運営体制の構築に加え、学校・保護者・地域の理解を深めていくことが重要であるとの認識が共有されました。さらに、競技活動の継続だけでなく、すべての生徒の活動機会や居場所を確保する視点を大切にしながら、地域の実情に応じた取組を進めていく必要性についても意見が交わされました。

NOTICE　指導者研修に関わって

「指導者の確保・育成」は、情報交換会でも多くの市町村に共通する課題として挙げられました。各市町村では、コンプライアンスやコーチング、指導方法等を学ぶ指導者研修が実施されています。

県教育委員会保健厚生課の「指導者養成リーダー出前講座事業」「競技別指導者研修会」「地域クラブ活動アスレティックトレーナー等派遣事業」「トップアスリート派遣事業」、県観光スポーツ部スポーツ振興課の「スポーツ活動指導者講習会」も実施されていますので、ぜひご活用ください。なお、指導者研修に関する相談がありましたら、管轄の教育事務所までお気軽にご連絡ください。





VOICE　参加された方の声



・他の市町村の方とお話をする事で、課題が一致する点と異なる点が見えてよかった。
・市町村の進捗状況や課題等を共有でき、本市の取り組みを推進していく上で、大変参考になった。
・初めての南信地区情報交換会だったが、他郡市の状況を知ることができ、大変有意義な会になった。来年度以降の開催もお願いしたい。



子どもたちの未来のために、みんなでトライしていきましょう🙌

＜問い合わせ＞
南信教育事務所　〒396-8666　伊那市荒井3497(伊那合同庁舎内)　☎ 0265-76-6861
南信教育事務所飯田事務所　〒395-0034　飯田市追手町2-678(飯田合同庁舎内)　☎ 0265-53-0461